

都道府県・ 指定都市番号	40	都道府県・ 指定都市名	福岡県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	水産
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>教科「水産」において、水産・海洋の諸課題を科学的に考察し解決にするために必要とされる思考力・判断力・表現力を育成するための主体的・対話的で深い学びを通じた学習指導及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	ふくおかけんりつすいさんこうとうがっこう 福岡県立水産高等学校（448人）				
所在地（電話番号）	福岡県福津市津屋崎4丁目46-14（0940-52-0158）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://suisan.fku.ed.jp/">http://suisan.fku.ed.jp/</a>				
研究のキーワード	水産 水産海洋基礎 総合実習 授業改善 評価方法				
研究結果のポイント	<p>（1）「水産海洋基礎」【基礎実習】及び「総合実習」の観点別評価規準について、校内教育課程研究委員会で検討し、評価規準の整理と学科間の統一を図る。</p> <p>（2）外部連携機関から指導・助言を受けながら、評価方法を確立する。</p> <p>（3）開発した「評価シート」を用いて授業実践を行い、実践した教員に「評価シート」についてのアンケートを実施して、評価項目や内容について検討する。</p> <p>（4）校内研究発表会の実施後、研究協議会を行い、授業評価を実施する。</p> <p>（5）研究前後に生徒の授業アンケートを実施し、生徒一人一人の実践力の育成について検証する。</p>				

## 1 研究主題等

### （1）研究主題

教科「水産」において、水産・海洋の諸課題を科学的に考察し解決するために必要とされる思考力・判断力・表現力等を育成するための主体的・対話的で深い学びを通じた学習指導及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

### （2）研究主題設定の理由

本校は創立66年目を迎え、「海にまなび 食にまなぶ 水高」のスローガンのもと、水産・海洋教育を行う唯一の県立高等学校である。本校では、1年次に全学科共通の教育課程を編成し、2年次から学科・コース選択を行い、生徒の希望進路実現に向けて特色ある教育活動を行っている。

本校においては、専門的な知識・技術の習得や資格取得だけではなく、思考力・判断力・表現力等を向上させるための授業改善と、実習における思考力・判断力・表現力等を測定するための観点別評価を十分に進めることができていない現状がある。そのために、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を実践し、その評価の在り方を研究していく。

#### ア 「主体的な学び」

学習活動に意欲的に取り組ませるとともに、自己の活動をふりかえる「生徒自己評価シート」を作成し、次につながる学習を進める。

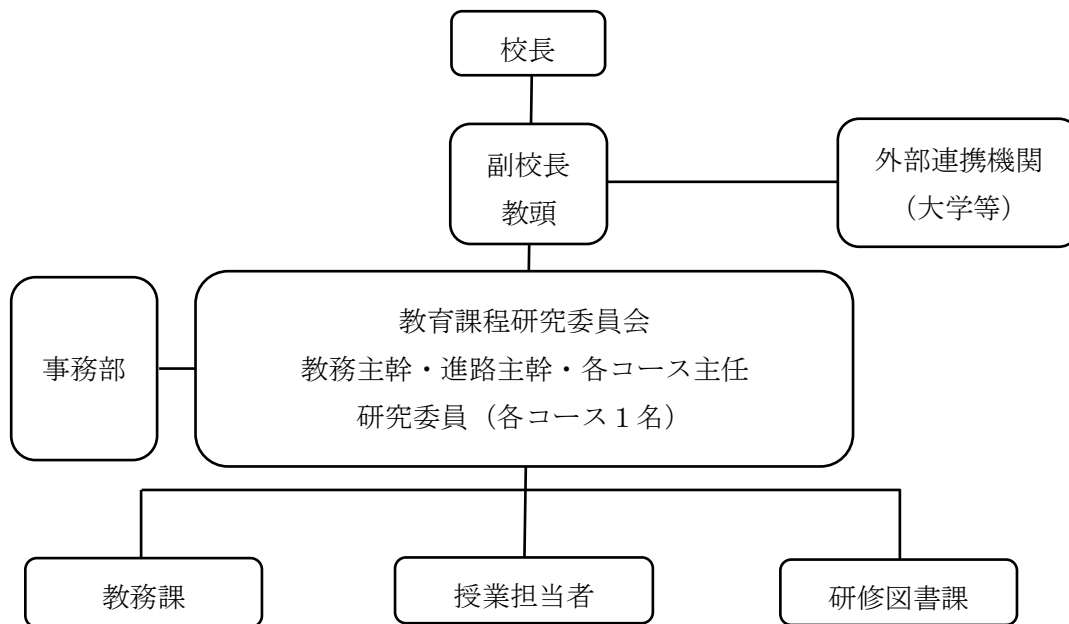
イ 「対話的な学び」

生徒同士の協働，教職員や外部（地域）の人との対話を通して，自己の考えを深める授業方法について研究を行う。

ウ 「深い学び」

学びの過程で，知識を相互に関連付けてより深く理解するために，「評価シート」を活用し，情報を精査して考えを形成し，課題解決に向けた資質・能力を育成する。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成30年度	<p>①研究委員会（担当国会議）（周年） 研究体制・研究内容確認，生徒意識調査（アンケート）の検討・分析 「水産海洋基礎」【基礎実習】の年間指導計画，観点別評価・成績の確認 観点別評価に基づいた「評価シート」の検討・開発</p> <p>②第1回生徒意識調査（アンケート）（7月）1年生全員対象</p> <p>③先進校視察（11月）三重県立水産高等学校</p> <p>④教育課程研究指定事業に係る調査官による学校視察（11月） 研究授業「水産海洋基礎【基礎実習】」 研究協議「主体的・対話的で深い学び」の学習指導につなげる工夫改善</p> <p>⑤福岡県「新たな学びプロジェクト」事業 ポスター発表・公開授業見学（10，11月） 於：福岡県立光陵高等学校</p> <p>⑥研究委員会（担当国会議）（12月） 「深い学び」のための「生徒自己評価シート」の検討・実施，次年度に向けた研究の進め方検討</p> <p>⑦第2回生徒意識調査（アンケート）（12月）</p>
--------	--

	⑧研究協議会資料原稿作成（中間報告）（12月） ⑨研究協議会での発表（中間報告）（2月）
令和元年度	①研究委員会（担当者会議）（周年） 研究体制・研究内容確認，生徒意識調査（アンケート）の検討・分析 「水産海洋基礎」【基礎実習】の年間指導計画，観点別評価・成績の確認 観点別評価に基づいた「評価シート」の検討・開発 ②第1回生徒意識調査（アンケート）（6月） ③外部連携機関（北九州市立大学教授）による研修会（6月） ④福岡県「新たな学びプロジェクト」事業 ポスター発表・公開授業見学（10，11月） 於：福岡県立光陵高等学校 ⑤教育課程研究指定事業に係る調査官による学校視察（11月） ⑥先進校視察（12月）熊本県立鹿本農業高等学校，宮崎県立宮崎海洋高等学校 ⑦第2回生徒意識調査（アンケート）（12月） ⑧研究協議会資料原稿作成（中間報告）（12月） ⑨研究協議会での発表（最終報告）（2月）

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ア 思考力・判断力・表現力等を育成するための指導方法，単元ごとの評価規準について改善
- イ 授業形態及び評価方法についての「評価シート」，「生徒自己評価シート」の開発，実践とポートフォリオの活用
- ウ ICT機器を活用した授業改善

### (2) 具体的な研究活動

- ア 思考力・判断力・表現力等を育成するための指導方法，単元ごとの評価規準についての改善  
 1年目は「水産海洋基礎」【基礎実習】で研究を深めたが，2年目は各学科で複数の担当教員が実習を展開する「総合実習」においても研究を深め，評価項目，評価規準について統一を図ることができた。また，指導方法の改善を図るため，ペア活動や班活動などの生徒同士の学び合い活動等を積極的に取り入れた。

#### イ 「評価シート」，「生徒自己評価シート」の開発・実践とポートフォリオの活用

「評価シート」については，専門分野の学びを深めるために，「水産海洋基礎」【基礎実習】の各学科での単元において，担当教員が観点別評価に基づいた「評価シート」を活用し，生徒の実習の取り組みに対する評価を行なった。生徒は「生徒自己評価シート」を記入し，学習目標への到達度を点検し，「深い学び」につながる学習であるかを検証した。

外部連携機関の北九州市立大学の教授からは，「学習指導・進路指導を効果的に行うための学習評価の在り方」と題して講義をいただき学習意欲を高める評価の工夫としてルーブリックの説明を受けた。

先進校訪問では，前回の教育課程研究指定校事業の指定校であった宮崎県立宮崎海洋高校を訪問し，研究開発した評価規準についての活用状況について説明を受けた。また，熊本県立鹿本農業高校訪問では，ポートフォリオの作成や活用について説明を受けた。

#### ウ ICT機器を活用した授業改善

1年目に続き、ICT機器（電子黒板）の効果的な活用方法に関する職員研修を実施した。特に若年教員研修においては、ICT機器だけではなく、船舶模型などの実物を活用しながら、視覚的效果を高めるための研究授業を実施することができた。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 「主体的な学び」の実現に向けて、「水産海洋基礎」【基礎実習】と【課題実習】の共通する単元において各学科が連携し、統一の評価シートを使用することができた。また、各学科の実技試験において評価項目、評価規準について統一を図るとともに、生徒と共有することで、生徒の学習意欲を高めることができた。
- ペア活動や班活動などの生徒同士の学び合い活動を取入れ、「対話的な」指導方法について授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組むことができた。実習科目の中では、必要かつ可能な限り毎時間取入れることができた。
- 「深い学び」を実現するために、「総合実習」において「評価シート」を作成し、観点別評価を行うことができた。また生徒は、「生徒自己評価シート」を活用することで、毎時間の授業の始まりに目標の確認と終わりにふりかえりを行い、学習目標や評価基準を生徒と教員が共有し、「深い学び」につながった。このシートを直接成績評価には組み入れてはいないが、授業の組み立て方など教員のふりかえりができることで授業改善が図られた。さらに、実習で使用するプリントの構成を見直し、ポートフォリオとして活用することで生徒の学びの蓄積ができた。
- 学習評価に関する研修やICT（電子黒板等）の活用について、職員研修を実施することで学習評価や授業改善の必要性について、教員の意識を改善することができた。
- 指導方法・評価規準に関する研究を行うことで、授業改善や評価規準に関する職員の理解を深めることができた。また、評価規準を明確化して評価シート等を作成することで、指導と評価の一体化を図ることができた。
- 観点別学習評価については、専門教科の実習を伴う科目に限らず、座学が中心の科目や普通教科においても共通認識を図り、学校全体での取組みとする必要がある。
- 実習科目で使用する授業プリントの改善を行い、ポートフォリオとしてより活用できるよう内容の充実を図る。
- 生徒への授業アンケートの内容を検討し、その結果を分析することで、授業改善を図る。
- 教員が個々で作成しているICT教材を共有できるようにすることで授業準備や教材研究のスピード化を図る。

### 4 今後の取組

- (1) 年次進行で履修する「総合実習」「課題研究」について、本研究で開発したシートを活用・実践することで、観点別評価の導入に向けた取組みを推進する。
- (2) アクティブ・ラーニングについての職員研修を実施し、指導と評価の一体化を意識した授業改善に取り組む。
- (3) 新学習指導要領の導入に向け、普通科を含めた教員間の連携を密にし、授業改善の方法、評価の在り方、生徒の指導について等、さらに情報の共有化と本研究成果の活用を図る。
- (4) 本研究の成果が全国水産高校の参考となるよう、学校Webページ等を活用し、公開する。